

上杉文華館 目録  
2023年1月2日（月祝）～1月29日（日）  
関東管領上杉氏⑩～永享の乱

資料名	員数	法量 (cm)	時代	作者	所蔵
複製 上杉本 <small>うえすぎほん らくちゅうらくがいずびょうぶ 洛中洛外図屏風</small>	六曲一双	各160.4×365.2	原本 永禄8年（1565）	狩野永徳	上杉博物館
国宝 上杉家文書 <small>あしかがよし の りご ないしよ 足利義教御内書</small>	一通	17.4×25.7	永享10年（1438）11月6日		上杉博物館 文205
国宝 上杉家文書 <small>はたけやま ちくに しよじょう 畠山持国書状</small>	一通	29.2×47.4	（嘉吉2年・1442）10月20日		上杉博物館 文868
国宝 上杉家文書 <small>うえすぎのりざねゆずりじょう 上杉憲実讓状</small>	一通	29.1×45.4	文安元年（1444）9月		上杉博物館 文898
国宝 上杉家文書 <small>うえすぎのりざねしよじょう 上杉憲実書状</small>	一通	29.1×47.5	（年未詳）8月6日		上杉博物館 文896

2022年度の上杉文華館は「関東管領上杉氏」をテーマに、国宝「上杉家文書」などを展示します。

長尾景虎（上杉謙信）は、永禄4年（1561）閏3月、上杉憲政から山内上杉氏の名跡と関東管領職を譲り受けました。ここに、後に米沢藩主となる上杉氏が成立しました。この関東管領の地位を名分として、謙信は関東に出兵し、同じく関東管領を称した北条氏と抗争を繰り広げました。また、江戸時代には関東管領に上杉家の歴史的アイデンティティを見出していました。この謙信が継いだ上杉氏の歴史を国宝「上杉家文書」からみていきます。

室町幕府は、東国支配のために鎌倉府という地方機関を設置しました。これは、足利尊氏の息子義詮・基氏、そして基氏の子孫に継承された鎌倉公方をトップとして、幕府とほぼ同様の組織を編成し、管下の武士に対して強力な支配を行っていました。その鎌倉府のナンバー2の地位にあって、鎌倉公方を補佐し、政務を統轄する立場にあったのが関東管領でした。初期は上杉氏以外の諸氏も含めた人事がなされましたが、最終的に山内上杉氏が継承、家職と位置付けられていきました。15世紀半ばに鎌倉公方と関東管領の対立によって鎌倉府が崩壊した後も、関東支配の重要な地位にあり続けました。

第10回目は、「永享の乱」をテーマとして関連文書を紹介します。永享の乱とは、鎌倉公方足利持氏と関東管領上杉憲実の武力衝突で、室町幕府の援助を受けた憲実が持氏を滅ぼした事件です。応永23年（1417）の上杉禅秀の乱以降、持氏は敵対勢力の討伐を徹底しました。敵対勢力の側は幕府と結び、持氏と幕府は対立を強めていきました。憲実はこの対立を収めるべく尽力し、また関東管領の職務に則って幕府の意向に沿うような意見を持氏に述べました。このような中で持氏と憲実の対立は激化していき、衝突へと至るのです。しかし、憲実には持氏を滅ぼす意図はありませんでした。今回は、持氏との交戦をめぐる憲実の苦悩などを紹介していきます。

「国宝上杉本洛中洛外図屏風」は、原本の完成時を想定した1995年制作の複製Aを展示します。